

KES取組事例の御紹介

ESGやSDGsへの取組で新しい企業価値を創造！

～令和3年度環境マネジメントセミナーの講演から～



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

■ KESとは

- ✓ 中小企業にも取り組みやすい京都発祥の環境マネジメントシステム
- ✓ 活動方針や目標を自ら設定し、PDCAサイクルを回して目標達成に向けた取組を推進
- ✓ 方針や目標を設定する際にESGやSDGsへの視点も含めることで、社会情勢にも対応したKES活動を行い、事業継続に役立てることが可能
- ✓ 環境経営の取組の第一歩として、京都市はKESの活用をお勧めしています。

【宮本電気工事株式会社】

（設立：昭和40年6月 所在地：京都市右京区）

事業展開をKES取組目標に！

事業内容：電気設備工事の設計、施工管理
及びこれに付帯する工事

KES取組歴：平成19年 ステップ1登録



<令和3年度のKES取組内容>

- ・EV自動車充電設備設置営業及び設置の推進（営業件数）
- ・敷地内緑化の推進 ・事業所周辺の清掃活動



敷地内緑化の推進の様子

Q 取組内容や目標を設定するうえで本業にいかすことを意識している部分は？

脱炭素化に向けた取組が加速し、顧客からの需要も感じている中、この流れに対応することがビジネスチャンスだと考え、EV自動車充電設備設置営業を始めました。この取組は環境経営の考え方と非常に合っていると考え、取組項目にも含め、活動を行っています。

KESの取組が事業とつながっていないと負担が大きいと感じるので、事業活動が前進するとKESの目標を達成できるという形が望ましいと思っています。

Q 今後の展望は？

EV自動車充電設備設置事業を進めて、いずれはKESの目標も設置件数にしていきたいです。全ての取組が仕事につながっていくと考えるとモチベーションも高まり、ワクワクしています。

【株式会社FUKUDA】

（創業：昭和44年9月 所在地：京都市山科区）

SR活動を次のステージへ！

事業内容：潤滑油総合卸売り販売及びそれに付帯する一切の業務

KES取組歴：平成21年 ステップ1登録

平成25年 ステップ2SRへ移行

平成26年 京都環境賞 KES推進賞受賞

令和3年 ステップ2へ移行

<令和3年度のKES取組内容>

- ・自動車燃料使用量の3%削減 ・希少植物の育成
- ・OA用紙使用量の10%削減 ・会社周辺の清掃（毎日）
- ・エコ商品の販売・提案5%UP



清掃活動の様子

Q 取組内容や目標を設定するうえでSDGs・ESGへの対応を意識している部分は？

社員全員が70歳まで働ける環境を作るため、KESを含め様々な目標を設定しています。ステップ2SRへ移行した際には、弊社が運営するオイルの量り売り「IBCローリーサービス」を環境配慮型商品と捉え、SR（社会的責任）課題の一つとして取組を進めていました。昨年からはステップ2へ移行し、従来のSR活動はSDGsへの取組として、現在も継続して運営しています。

Q KESの取組に期待することは？

KESを始めたことで、報告、連絡、相談がスムーズに行えるようになり、KESは環境だけでなく全体のマネジメントの改善ができるシステムであると考えています。

環境への取組を軸にしながらSDGsなど環境以外の取組へと発展していけたらと思います。

業 務 内 容：中小企業・小規模事業者の金融円滑化のための公的機関

K E S 取得歴：令和3年 ステップ2取得

<令和3年度のK E S取組内容>

- ・温室効果ガス排出の削減 ・廃棄物発生量の削減
- ・天然資源消費の抑制 ・エシカル消費の推進
- ・省エネルギー ・再生可能エネルギー導入



事業所の受付

Q K E Sを始められたきっかけは？

「金融と経営の総合支援サービス機関」として、中小企業者の皆様の事業活動を通じた環境負荷を低減する取組を支援するとともに、当協会も、持続可能な社会を目指すオール京都の一員として、環境経営を意識した事業活動に主体的に取り組んでいく必要がありました。環境負荷の低減をどのように進めていくかを検討した結果、京都発の環境マネジメントシステムである「K E S」に取り組むこととしました。

Q 取組内容や目標を設定するうえで本業やSDGs・ESGを意識している部分は？

当協会は、事務系のオフィスであり、事務用紙消費量や電気使用量の削減が、環境改善だけでなく、働き方改革にもつながることを意識しています。

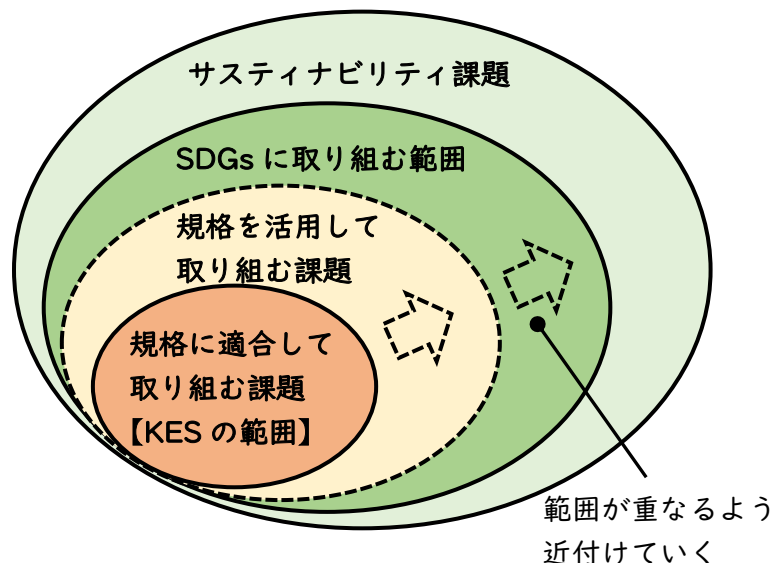
また、K E Sの取組は、当協会のSDGsの取組の一つである「社会的責任・環境保全」の一環であり、協会が環境負荷の低減に率先して取り組むことで、今後、中小企業の皆様へのSDGs、環境経営の普及やマインド醸成にもつながると考えています。

■ SDGs・ESGへ対応した取組設定について（特定非営利活動法人K E S環境機構）

KESのシステムは、SDGs取組の基盤として機能させることが可能です。組織としてSDGsに取り組む内容を設定し、そこで挙げているサステナビリティ（持続可能性）課題について、環境課題以外の課題も併せてKES規格

に適合する形で取組を実行することにより、企業がSDGsにどのように取り組むべきかを示した国際的な行動指針である「SDGsコンパス」とも整合性の高い取組が行えます。また、規格に適合するまで体制を構築できなくても、KESの規格を活用することで効果的に取組を進めていくことができます。

取組を進める中で、活動の初期は環境課題を中心としてKES規格に適合した管理を行い、段階的に取組の範囲を環境課題からその他の課題へと広げていくことで、組織の環境マネジメントシステムを次第にサステナビリティ全体に対応したマネジメントシステムに進化させることが可能となります。



KESを活用したSDGs取組のイメージ

【K E Sに関するお問合せ】 特定非営利活動法人K E S環境機構

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地 京都経済センター 6階

TEL：075-342-1170

FAX：075-342-1177

発行：京都市環境政策局環境企画部環境管理課 令和4年3月（本紙に記載の取組事例は発行時点の情報です。）

制作協力：特定非営利活動法人K E S環境機構

京都市印刷物 第035097号